

ところざわ倶楽部

活動報告「入間市博物館見学&講座『幻の武蔵野鉄道青梅支線』」

野老澤の歴史をたのしむ会

2024-6-24 佐野喜代子 記

- ◆日時 令和6年(2024)6月21日(金) 14時~15時50分
- ◆集合 入間市駅改札付近 12時30分
- ◆場所 入間市博物館講義室
- ◆参加者 24名
- ◆講師 入間市商業観光課(元入間市博物館学芸員) 平田 光洋氏

当日は大雨になり集合時間に全員集合できるか心配しましたが、予定より早く全員集合し予定のバスに乗車、座席はほとんど埋まる状態でした。

バスの遅延もなく予定通り到着できたので、館内展示を一通り説明していただきました。



●当時の鉄道状況について

「狭山」をめぐる争う3つの鉄道会社

○ 武蔵野鉄道

現在の西武池袋線の前身。大正4年(1915)池袋-飯能間が蒸気鉄道として開業。

大正後期から昭和初年代にかけ電化や複線化など設備投資を加速させた。

大正14年には池袋-飯能間の電車営業を開始。池袋から順次進められた複線化も昭和4年に保谷まで完成。同年5月1日には西所沢-村山公園間開通(現在の狭山線)

○ 旧西武鉄道

現在の西武新宿線と国分寺線の前身。明治28年(1895)国分寺-川越間を結ぶ蒸気鉄道として開業。地域の鉄道交通を独占する存在だったが、武蔵野鉄道と東上鉄道(現東武東上線)の開業で大きな痛手を受けた。その後紆余曲折を経て西武鉄道となる(現在の西武鉄道とは別資本の会社であるため研究上{旧西武鉄道}と表記)。昭和2年(1927)東村山-高田馬場間を電化複線で一挙開業。川越-東村山間を電化、昭和4年4月5日東村山-村山貯水池前間が開業(現在の西武園線)。なお、旧西武鉄道は開業当時川越鉄道の名でも知られている。

○ 多摩湖鉄道

現在の西武多摩湖線の前身。別荘地分譲や郊外住宅地開発を手掛ける箱根土地会社が、自社で開発

した小平学園都市の住民輸送を目的に設立。昭和5年（1930）1月23日萩山一村山貯水池下（仮）間を延長開業。その後、箱根土地は、過剰な設備投資により経営が悪化した武蔵野鉄道の主導権を徐々に掌握。さらに旧西武鉄道の経営権を握ることになる。同社を率いたのが、後に西武王国を築いた堤康次郎である。

●幻の武蔵野鉄道青梅支線

武蔵野鉄道青梅支線は、現在の西武鉄道池袋線の前身である武蔵野鉄道が、同社の支線として計画した鉄道である。埼玉県入間郡小手指村（現埼玉県所沢市）の西所沢駅から分岐し、東京府西多摩郡青梅町（現東京都青梅市）を結ぶ11哩10鎖（約17.9km）の単線電化路線として計画され、昭和4年（1929）に鉄道大臣より敷設免許が与えられた。同支線には、北野・堀之内・宮寺・元狭山・霞・東青梅の各駅が設けられる計画であった。

この計画は、昭和6年に武蔵野鉄道から当時の金子村（現入間市金子地区）へ工事承諾を求める書類が取り交わされるなど、建設に向けた動きがあったものの、その後は具体的な進展を見せず、昭和16年の免許失効により幻のものとなった。入間市博物館には、昭和6年当時の「西所沢青梅間線路延長実測平面図」等が所蔵されており、当時の建設計画を知る貴重な史料となっている。

駅ができる予定だった場所と思われる地点をグーグル写真で見せてくれたところによると、

北野	現在北野保育園があるあたり
堀之内	三ヶ島農協あたり
宮寺	小学校や役場のある中心部から少し北にはずれたあたり
元狭山	現在の入間市二本木地区。入間市博物館近く二本木地蔵のあたり この近くの台地上に昭和9年陸軍狭山飛行場が敷設されている
霞	現在の岩倉街道今井馬場崎交差点南西あたり
東青梅	現在の東青梅駅より少し青梅駅より、踏み切りあたり

大正時代には、松川次郎「東京近郊 日がへりの旅」（大8）

「東京の近郊」（大9）

田山花袋「東京の近郊」（大9）

などの観光案内的な本が出されていることには驚きました。その記述には車窓に見える武蔵野、茅、などの草原、茶畑、街を見下ろすところ、そして豊岡駅（現入間市駅）からは石川製糸場の煙突が見えるなどきれいな文章で書かれています。大正時代は平穏な日々、郊外のハイキングなどを楽しむ人たちがいた様子がわかりました。

この他いろいろ鉄道に関する話が次々続き、時間が足りない感じでした。

私の生まれ故郷は青梅市です。もしもこの鉄道が現実にあったら、奥多摩の主峰大岳山を正面にして車窓から緑のお茶畑を見ながら乗り換えなしで東青梅に着いたのかと思いながら講義を聞いていました。

あらためて時間制約の中で館内を案内して下さった博物館学芸員の方、お忙しい中休暇を取って私たちのために講義をして下さった平田講師に心よりお礼申し上げます。ありがとうございました。

（本文中の各鉄道の解説は本日の講師講義資料「幻の武蔵野鉄道青梅支線について」によります）

担当 Dグループ 喜多・佐野